

財団法人 ダム水源地環境整備センター (WEC)

近年、環境の重要性が国際規模で叫ばれ、日本における社会資本整備への人々の期待も、物質的な豊かさよりも心の豊かさを求めるものに変化してきました。

ダム水源地環境センターは、昭和62年12月に財団法人として設立許可され、寄付行為により運営されています。創立以来、社会情勢を踏まえながら、ダム貯水池および周辺の水域圏における生態環境、ダム貯水池の水質保全対策、堆砂対策、貯水池周辺環境整備および地域振興対策、ダムおよび流水の管理などについての調査研究と技術開発を学官民の力を結集して進めています。

また、水源地における情報交換等のための広報活動も実施しています。

<センターの主な業務内容>

●生態環境

全国のダム湖に生息する生物のデータ収集・蓄積や、希少猛禽類の生体調査など、ダム湖およびその周辺における生態環境把握のための調査・研究を実施する。

●水質保全対策

貯水池等の冷・濁水や富栄養化といった、社会環境に影響を及ぼす要因と成りうる水質変化に対し、その対策のための基礎的調査および対策の研究・技術開発を実施する。

●堆砂対策

ダムの持つ治水・利水機能の回復を図るために、
 ・山地流域からの土砂流出を防止するための森林山地整備
 ・貯砂ダムやバイパストンネルなどによる流入土砂の抑制
 などに関する技術的課題について、効果的な対処策を研究する。

●周辺環境整備・地域振興

恵まれた自然環境を有するダム湖およびその周辺地域を、水と緑の豊かな潤いと憩いの場やレクリエーション活動の場として整備し、地域活性化の核として活用するため、
 ・ダムおよびダム湖の特性に着目した周辺環境整備の計画検討
 ・調和のとれた地域の将来像の検討
 ・水源地エキスパート制度による専門家の派遣などを実施する。

●ダムおよび流水の管理

適切なダム管理の実施を目指して、ダム省力化の研究、ダム操作システムの計画・設計等を実施する。

また、流水の管理として生態系を重視したダム直下の環境用水について、調査・研究を実施する。

さらに、これまでの環境調査等で得られた総合的知見を活かしたより適正なダム管理およびダム事業計画の研究も実施する。

●広報活動

国民が森林やダム湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、ダム湖の重要性を認識することを目的に制定された「森と湖に親しむ旬間」において、主要な全国行事を運営する。

(財)ダム水源地環境整備センター

研究第2部 奥田 康三

ダム貯水池内における富栄養化や濁水等の水質保全対策に関する検討業務を担当しています。

近年、ダム貯水池および周辺における環境への関心は高まりつつあり、ダム管理者からの濁水・水質に関する調査検討要請が多くなってきています。また電力会社からダム貯水池に関する様々な検討依頼もあります。

昨年7月から当センターに出向し、約1年になりますが、電力会社の発電用ダム(ハイダム)と多目的ダムとは、水質問題の内容が多少異なっています。

国や公団が管理するダムの場合、洪水調節のみでなく、上水道、農業用水、工業用水利用といった多目的ダムが多くあります。従って、濁水問題は電力会社と共通の問題ですが、飲料水に係わる水質問題(異臭味を発生する植物プランクトンの繁殖状況に関する問題)は、多目的ダム特有のもので、電力会社のダム貯水池では恐らく発生しないものです。これには私自身植物プランクトンの名前から勉強しています。

このように勉強すべきこともあり多忙な日々ですが、日本全国のダムを見る機会が多く水力設備の様々な情報・知識が習得できます。また出向者も電力・コンサルタント会社・建設会社・メーカー等多業種にわたり、幅広いコミュニケーションも出来、有意義な出向生活を過ごしています。



坂本ダムにて

ホームページ
<http://www.wec.or.jp>

WEC : WATER RESOURCES ENVIRONMENT TECHNOLOGY CENTER